

平成26年度 特定非営利活動法人そよかぜねっと
やすらぎ工房 事業計画

1 基本方針

メンバーひとり一人のニーズに沿って、安心して過ごせる場、主体的に活動できる場、また就労をめざすための場をめざすとともに、精神障がい者への理解をさらに深めるための地域社会に向けた啓発活動をすすめていく

2 実施計画

(1) 就労をめざすための場づくり

①施設内作業

昨年度まで主体的に取り組んできたプレテックの自動車部品の検品作業を中止し、新たな作業として紙箱の組み立てを開始。慣れるに従い、スピードがあがり不良品が減少している。安全興業・セイブの作業は継続。

②施設外作業

従来由市役所での受託作業（ワークルーム虹）参加の可否や回数は、チェックリストの点数で客観的に適性を判断し決定。今年度から新たに布の裁断作業を開始。目標量を達成できることを目指していく。今後、シールはがし・公共施設の清掃などの作業を導入予定。この新たな作業には細かい参加基準は設けず、希望があり作業に支障がなければ参加できることとする。

④就労希望者への支援

今年度も年度内の就労希望者あり。各関連機関と連携を取りながら、できるだけ本人の意向に沿った所への就労につなげていく。

(2) 安心して過ごせるための場づくり

①土曜開所試行

休日に時間を上手く使えない、家で時間をもてあまして、という声に応じて、4月より実施。職員2～3名（メンバーの人数に応じて変動）配置。事前に担当職員と希望メンバーとでミーティングを行い、1日の予定を決める。

③居場所としてくつろげるための環境整備

トイレや休憩室などがくつろげる空間となるような改善を目指す。

(例：助成金を活用したトイレの改修工事)

また、メンバーが相談したい時に親身になって対応するように職員は努めていく。

(3) 主体的に活動できる場づくり

①事業所内での活動支援

今年度から行事・レクリエーションは月1回とし、偶数月は平日、奇数月は土曜開所時に実施。メンバーが積極的に意見・希望を出せるような配慮をする。

②地域行事への参加

地域交流、メンバーの社会参加の一環として、今年度も地域の各種行事に積極的に参加する。バザーへの参加により工賃アップにもつながる。

(4) 地域への啓発活動

精神障がい者への理解を深めるため、次の活動をその一環として地域に向けて発信する。

①サンサン広場の清掃活動

②イエローレシートキャンペーンへの参加

③ハートフルふれあい広場（バザー：年2回）

④「そよかぜねっと通信」「やすらぎニュース」の発行

⑤ホームページ更新

(5) 支援のための体制づくり

①職員体制の確立

各職員の能力・適性に応じた配置、悩みやストレスをためこまないような配慮により、働き続けやすい環境を整える。

②職員研修の充実

職員の専門性の向上のため、積極的な研修参加・資格取得を勧める。また、必要に応じて施設見学、講師を招いての施設内研修なども検討する。

③各関係機関との連携・職員間の意思の疎通

障害福祉課・相談支援センター・就業支援センター・医療機関・家族等との報・連・相を密にする。自立支援協議会に参加し、情報交換する。

朝夕の職員ミーティングや職員会議・ケース会議での話し合い、職員ノートの活用により、情報を共有する。

